

東北遠征：森吉山・秋田駒ヶ岳山スキー報告

【山城】秋田県：森吉山・秋田駒ヶ岳

【日程】2020年2月22日(土)~24日(月)

【メンバー】CL 菊池・SL 坂倉・田形・岡田（会員外）



1日目：22日(土) 阿仁スキー場—森吉山 曇りのちガスで視界不良 田形記

【行程】

阿仁スキー場駐車場—ゴンドラ山頂駅（9:15）—石森—避難小屋（10:16）—森吉山山頂（10:44）—滑走—連瀬沢—石森—山頂駅（12:56 気温1℃）—ゲレンデ・ゲレンデ脇ブナ林滑走—駐車場（13:15） 行動時間：3時間59分 距離：9.5km 上り：402m 下り：1038m

- 千葉を金曜日の夜10時に出発し、一路、東北道をひた走り、途中で運転を交代しながら本日の出発点となる阿仁スキー場に翌朝8時に到着。愛媛から合流の岡田さんは既に到着しており、挨拶もそこそこ8:45のゴンドラ稼働に合わせて準備。

今日のコースはゴンドラ山頂駅から森吉山往復で、数日前の降雪でパウダー期待高まる。

(阿仁スキー場の積雪は220cm)

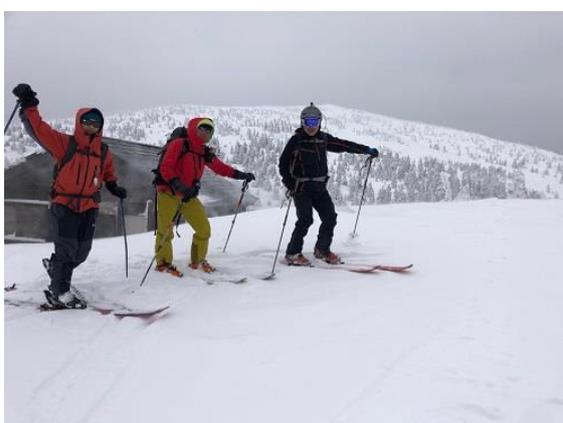
山頂駅に着いてみると曇りながら山頂までの視界はあるが、午後から天気が崩れる予報で、既にかかなりの強風で、気温はそれほど低くはないが、風の影響で体感温度は気温-10℃程に感じる。

シールを付けて登山道に入ると、風上側はシュカブラが形成され固くパックされている。石森に到着、森吉神社手前に数名のパーティが見え、風裏のパウダーにドロップしているのが見えるが、周りを見渡しても登山者の姿はなく、山頂へは我々がトップの様である。



避難小屋までは1時間ほどで到着するも、殆ど寝ていないため体が重い。

今年は雪不足で、これまでに経験のない程の少ない積雪であるが、この辺から樹氷の様相になっており、過酷な厳冬の世界で生き抜く樹木の生命力には驚嘆するばかりで、厳しい自然の姿の美しさに感動。



山頂に近づくにつれ風が強まり、まともに風を受けるところは雪が飛ばされカリカリ状態、窪地は粉雪が吹き溜まり、意外と深い。





・何とか視界のある内に山頂を踏めたが、体がよろめく程の強風で、とてもシールを外せる状況に似ないため、記念撮影も早々にシールを付けたまま風を回避できる樹氷群まで少し下るが、カリカリ面はスキーのエッジが利かず転倒しないように踏ん張るのがせいぜいで、吹き溜まりの入った瞬間にスキーが取られバランスを崩す繰り返しで、しながらゆっくり滑る。

ようやく風が回避できるところまで下り、シールを外し森吉神社方面に向かっていよいよドロップ開始。



いざ滑ってみると固い面と吹き溜まりがあり、一見して判断できないためバランスをとるのが難しく、何とか谷筋まで滑ったものの、楽しめるレベルには程遠く、技術不足を痛感。一方私を除く3名は正真正銘のエキスパートで、リーダーは華麗にテレマークターンを決め、Oさんも久しぶりのパウダーと言ってテレマークターン決めつつ雪と戯れるのを忘れていない。Sさんは難しい雪面状況でもスピード感のある力強い滑り電話、雪を蹴散らし見事なシュプールを刻み付けており、それぞれ満喫している様子。

尾根筋に上がり返したところで(石森)ガスが



かかり始め視界が取れないため、リーダーから下山指示。少し下ったところ濃いガスで視界が数 m のホワイトアウト状態となり、GPS で下山方向を慎重に確認しゴンドラ山頂駅に進むうちにガスも薄くなり視界も戻ってきた。

すぐに山頂駅に到着し、ゲレンデやゲレンデ脇のブナ林を滑走し、本日の山行が終了。その夜は森吉山荘で宿泊、夕食は比内地鶏、



きりたんぼ鍋、山菜などの豪華な料理に加え、生ビール、地元の日本酒3種など飲み放題付きで、その夜は寝不足も忘れ山スキー談義で盛り上がった。冬期は利用料金が安くなっている上に北秋田市から1600円/人の補助が出ているとのことで、1泊7千円は大満足で、絶対お勧め宿NO.1です。ぜひ皆さまもご利用ください。



2日目：23日(日) 旧森吉山スキー場跡 曇りのち雪(吹雪)強風 坂倉記

【行程】テレマーク山荘近くの除雪最終地点(570m)～旧森吉スキー場駐車手前の道路脇に駐車～旧森吉スキー場～一ノ腰(1,264m)の手前1150mまでハイクアップし登り一ブナ林・旧ゲレンデを滑走～登り返し～1100mまで～旧ゲレンデ滑走～走路滑走～駐車スペース

- ・この日は日本海を進む前線を伴った低気圧が通過するため北日本全域で大荒れ予報の一日。朝食前に宿の玄関から山を眺めていると「ゴォーッ」と強烈な風の音が聞こえてくる…。小雨がパラついており夜間に降雪は無く期待外れ。ここまで当日の条件で好材料は無し。

朝メシは充実したバイキングで、無駄になりそうな予感満載にもかかわらずみんな元気に腹一杯に食事を摂る。

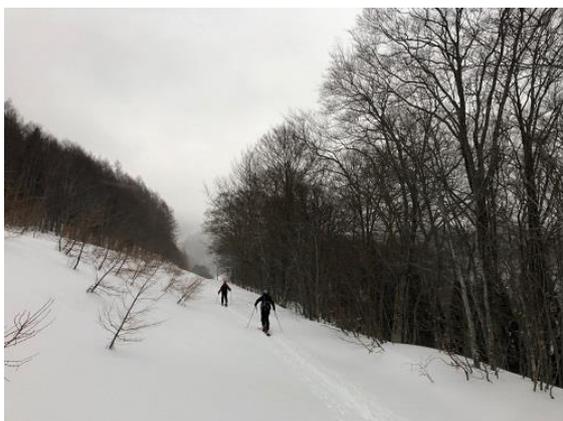


- ・食後に宿から30分ほどのハイクアップ開始地点まで車で移動。例年はテレマーク山荘近くの除雪最終地点からスタートのようだが、寡雪のためか更に上部(e1700m地点)まで除雪されており小1時間程度稼ぐことが出来た。悪条件が多い日の中で数少ないラッキーだ。

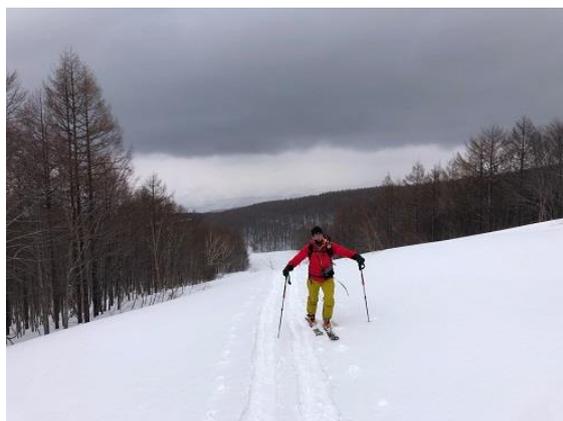
スタート時の気温は-3℃、小雪がちらつく中スタート。林道を進み旧森吉スキー場のゲレンデへ入り先行者のトレースを追う。(この日は我々を含め 10 名程度が入山した模様)



途中途中で雪の状態をチェックするが、風に叩かれパックされたモナカか、前日に気温が上がった影響で湿雪であり、快適な滑走は望めそうもなくテンションも中々上がらない。



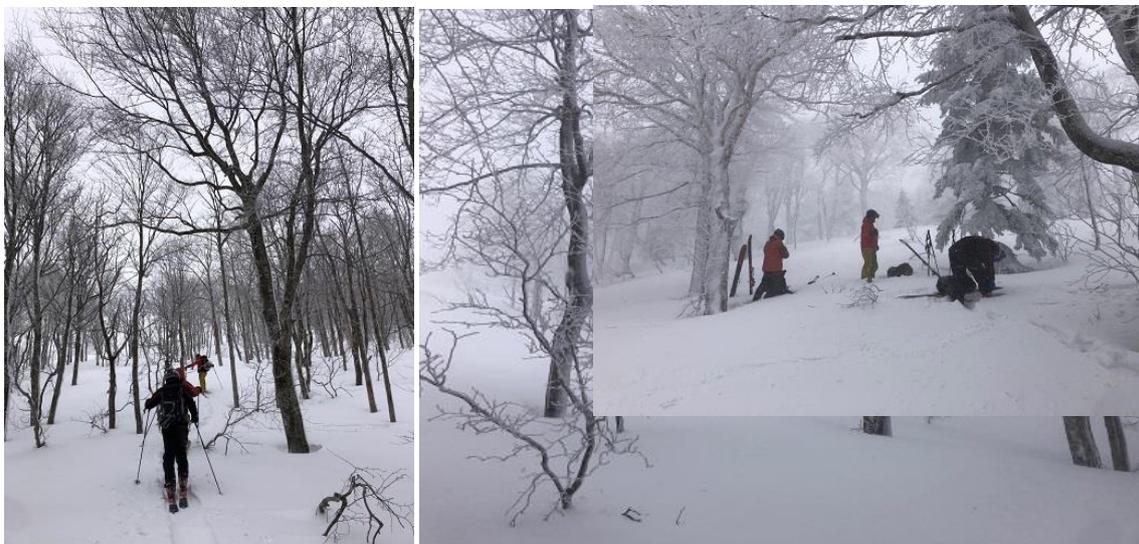
そんな中 CL から、2 名ずつ 2 列となり滑走するラインをイメージし圧雪しながらハイクアップするよう指示があった。山スキーのセオリーは、滑走斜面を温存するためルートを手もとにハイクアップするのでこの指示とは真逆で意外である。これは悪雪で滑りにくいストレスを軽減するため、圧雪したハイクアップトレースを滑るという知恵なのだとか。(幸運にも滑走



時にはコンディションが回復したため使わないで済んだのだが)

うーむ、山スキーは奥が深い…、そして CL の引き出しの多さに改めて敬服する。

その後も旧ゲレンデや林間等、少しでも好条件のコンディションを探しながらハイクアップを続ける。



そんなこんなで旧スキー場ゲレンデトップを超え 1,150m 地点辺りまで到達、徐々に雪が強くなりガスも出て視界が悪化してきたため、強風が予想される稜線上にある目的地一

ノ腰 (1,250m) までは上がりずこまでとすることに。気温は-10℃だが風をかわしているためかそこまで寒くは感じない。

- さて、ドロップですが、ん？悪くない???

というかベリーゲーッ!!!!

滑走時にはかなり雪が強く降っていて、エアを含んだフレッシュな新雪で斜面は急速にリセットされていたのである。

「ハッポー」やら「ハイポー」等奇声を発しながらブナ林のツリーや旧ゲレンデを思い思いに気持ち良く楽しんでいると、斜面脇をハイクアップする 3 名パーティと遭遇。聞けばコンディションが回復したのもう 1 本お替りするとのこと。



刺激をいただき我々も負けてはいなれないと、880m 地点から 1,050m 地点まで登り返してお替りをしたことは言うまでもない。結局 800m 地点程度まで良好なコンディションで、快適な滑走を楽しむことが出来た。



・期待値が低い中で好コンディションに巡り合えると満足度が格段に上がるという典型的な一日となった。

2 泊目のお宿は阿仁前田駅に併設されたクィンス森吉。食事をしていると昼間登り返していたパーティの方達と同宿だったことが分かりスキー談義に花が咲く。興味深い話をたくさん聞けて楽しい時間を過ごした。



3日目：24日（月） 秋田駒ヶ岳(8合目小屋まで)晴れのち曇り 菊池記

【行程】クィンス森吉 5:15—ローソンで休憩—7:00 アルパこまくさ駐車場—7:43 シール
登行開始—旧ゲレンデ—10:35 8合目小屋 11:16—往路（林間・旧ゲレンデ）滑走—12:

10 駐車場—入浴（アルパこまくさ）—角館（食事：稲庭うどん）—帰葉



・東北遠征の3日目の24日は秋田駒です。

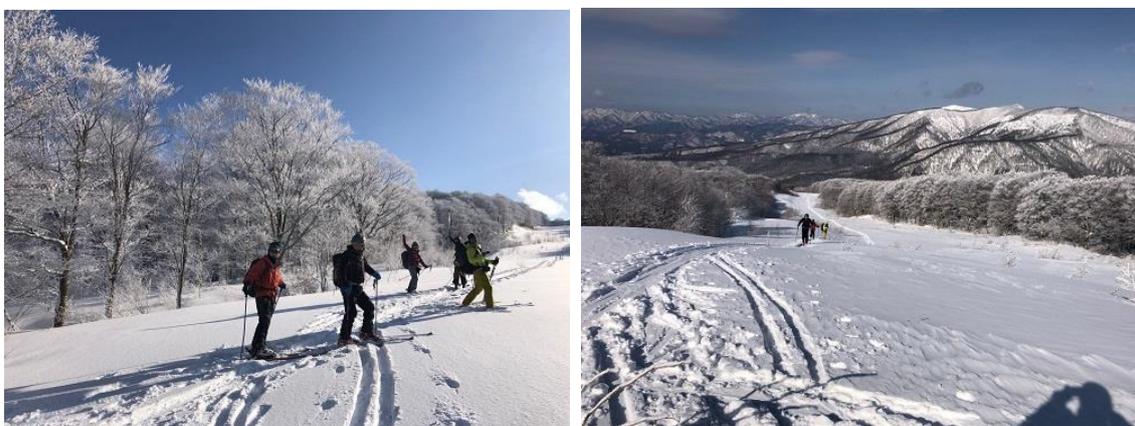
高気圧が張り出していますが、南に偏り、北日本は曇りベースで午後は雪予報です。アルパこまくさの駐車場に到着すると、なんとNBSC(新潟バックカントリークラブ)時代の山スキー仲間のPが4名、それと12月に志津でばったり会ったISさんP2名が偶然の出会い。記念撮影しました。その他単独と後続した2名のPの計13名のみに入山でした。



スタート時には青空が徐々に広がっていました。標高 680m のアルパこまくさをスタートし緩斜面の旧スキー場を気持ち良くハイクアップします。新雪は 20~30 cm ほどです。右手の駒ヶ岳山頂は雲で覆われています。朝のうちは気温が低く良質のパウダーに期待感が膨らみ、振り返ると田沢湖が見えます。



駒ヶ岳ブルーの下、霧氷が映えます。緩斜面主体の旧スキー場のトップに近づきました。



車道との合流地点です。この後はしばらく車道をショートカットしたりしながらこんな素晴らしい世界を進みます。すんばらしい霧氷の世界です。駒ヶ岳ブルーとのコントラスト



トを堪能です。ドーンと迫力の駒ヶ岳山頂が見渡せる地点です。紺碧の空と雪花、笹森山を望む絶景で素晴らしい世界です。10:04 男女岳山頂付近は風が強く雲が湧いてきました。予報より早く崩れてくるようです。こんな素晴らしい世界に浸れるだけでも満足です。火山特有の迫力満点の景色です。8合目小屋も間近で、雲が増えてきました。



風雲急を告げる天気になってきました。ガスで視界不良の8合目小屋に到着です。



スタートして 2:50 かかりました。小屋の中に冬場でも使用可能なトイレが完備されている素晴らしい小屋です。残念ながら今回はここで敗退、滑走開始です。



良質のパウダーで素晴らしい滑走感です。旧ゲレンデに出ても雪質が良く素晴らしい滑走ができます。この後は右のブナ林をしばらく滑走しました。



旧ゲレンデの滑走も下部はやや湿雪になり、滑りにくくなりました。東北遠征の最後の滑走を楽しむ TG さんです。



アルパこまくさの温泉で疲れを癒し、角館の武家屋敷を見て「稲庭うどん」を食して締めくくりとしました。

- 今回の2泊3日の東北遠征は四国新居浜から往復 2656 kmを独りで運転して参加してくださった O さん、千葉からも往復 1300 km程と、いつもの上信越エリアの約2倍の距離であったが、遠路遥々参加したメンバー4人は皆さん、山スキー大好きのクレイジーな仲間です。今後もお付き合いよろしくお願いたします。

